

ひめだ高宏ニュース

NO.994

14.1.29

日本共産党 和歌山市会議員

秘密保護法の廃止を

1月24日(金)昼休み、「STOP! 秘密保護法おかやま共同行動」が特定秘密保護法制定に抗議、廃止を求め市役所から市橋までパレードしました。



(中村、南畑、松坂、ひめだ)

市長選挙の基本政策

1月15日(水)活気ある住みよい和歌山市をつくる会総会で決定された2014年和歌山市長選挙にあたっての基本政策は、次のとおりです。

- ① 安倍内閣のすすめる社会保障改悪に反対し、医療・介護・福祉の充実
- ② 市民のくらしを支え、住宅リフォーム助成制度で中小企業・業者の経営をまもり、地域経済の活性化
- ③ 地元企業を元気にし、青年雇用の促進

和歌山市政学習会

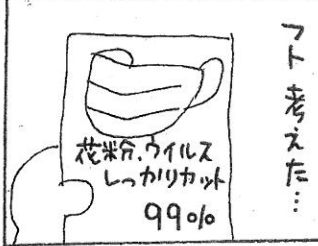
① 暴走野郎安倍内閣と自治体
② 和歌山市政について
③ 市民選挙と和歌山市政

2月6日(木)
18:30~20:00

フォーザ・ホープ 2階
※お茶代は別にお持ちください

- ④ こどもの医療費補助の引き上げ、幼稚園・保育所の民営化に反対し子育て支援の拡充
- ⑤ 教育への政治の介入をやめさせ、教育予算の拡充
- 2. 市民の生命・財産を守る防災対策をすすめます
- ① 環境をまもり「安全・安心」のまちづくり
- ② 生活道路、公共下水、公園、公営住宅などの整備
- ③ 環境を破壊する産廃処分

777のマスクマン



- ④ 原発ゼロ、自然エネルギーの活用と推進
- 3. 不公正な同和行政を終

こんにちは日本共産党のかとう直人です。

(その5)

「めざす会」のこと③

毎年、1月近畿の障害者運動交流会が開催されます。今年は26日に大津市で、2府4県から障害者問題の取り組みが報告されました。共通テーマは「家族介護中心の福祉からの脱皮」。家族介護は経済的にも体力的にも限界が来ていると実態調査の結果です。最も犠牲を強いられているのが母親という指摘は和歌山の精神障害者家族の実態調査と同じ結果です。

社会保障は自助を基本とする。今後の政策ではなく、母親の基本的な人権を保障する介護へと変えなければなりません。近畿の実態から全国の障害者福祉のあり方を問う面白い交流会でした。私も和歌山の「めざす会」活動から介護サービスの拡充、橋本電動車いす訴訟の経過と支援を訴えました。滋賀の仲間が、和歌山の「めざす会」は発展しているねと喜んでくれました。そのひとつ、橋本車いす訴訟について次回も報告します。



かとう直人 (県議予定候補)

- 4. 平和と民主主義をまもり、憲法がくらしにいきる和歌山市

場建設には反対します

?大規模盛土造成地マップ

市・まちづくり局都市計画部開発指導課は大規模盛土造成地マップをつくり、市民に公表すると資料が届きました。

これは、地震時の宅地の安全性を確保するために06年に改正された宅地造成等規制法を受けて、国が大規模盛土造成地を把握するための調査や滑動崩落を防止するために必要な調査及び

工事を支援する宅地耐震化推進事業を創設したことから行われるという事です。配布資料には、事業の流れとして①第1次調査(12年度実施)②大規模盛土造成地マップの公表(13年度実施)③第2次調査実施計画の策定④第2次調査とあり、その先には「土地所有者等による滑動崩落防止工事(耐震化工事)の実施」

とあるものの、その工事に對して補助をする等の記載はありません。

マップ作成の目的は、地震による滑動崩落が起る危険性のある大規模盛土造成地が身近にあることを知らせることにより防災意識を高めることだそうですが、可能かどうかわかりませんが、滑動崩落防止の工事で空き詰めないと思いますが、どうでしょうか？

こどもたちは日本共産党

年金切り下げアカン!

年金切り下げは不当だと全日本年金者組合が取り組む行政不服審査請求の請求人が1月26日、10万人を突破しました。安倍政権は昨年10月分

から年金を1%削減、2015年4月までに3段階で計2.5%引き下げようとしています。

こうした動きに抗議して年金者組合は昨年6月の大会で大規模な不服審査請求運動をすすめる方針を決定。同12月の中央委員会でも10万人規模の運動を承認し、あずか10月半で請求人が

10万1348人に達しました。請求書は3日に全国いっせいに厚生労働省や年金事務所などに提出し、集会やデモで広くアピールします。

富田委員長は、「高齢者が本当に怒っていることを痛感した。今の政府はしっかりと受け止めてほしい」と話しています。

潮流

昨年、インターネット番組「とことん(2014.1.28) 共産党」のコーナー企画「赤旗ナイト」

付のスクープ▼27日現在、アクセス数は9万3000件以上に。ツイッターでも1万2000人以上がこの記事を「ツイート」しています。「自民党は頭が痛いだろうなあ。それともウヤムヤにするのか。相変わらず、赤旗の調査力すげえな」などと、共感を寄せるコメントがズラリ▼細川護国元首相の佐川急便からの「億田借入疑惑」の記事もよく読まれています。これ

で行った「アクセス・ランキング」が好評でした。日本共産党のホームページにアップされた本紙記事1年間のアクセス数トップ10の紹介です▼第1位は都議選での共産党躍進で10万件以上。参院選の党躍進やブラック企業問題などの記事が上位に並びました。テーマ別では、秘密保護法関連の記事にアクセスが集中。その時々の社会的関心事や党への期待が端的に反映されています▼今年すでにアクセスが殺到している記事があります。都知事選候補の舛添要一元厚生労働相が結成した「新党改革」が、借金返済に使えない政党助成金や立法事務費を銀行からの借入2億5000万円の返済にあてたという、21日

も細川氏は真相を語っておらず、決して「時効」ではありません▼猪瀬直樹前知事の間歇金疑惑の徹底解明、清潔な都政への転換を主張している候補は宇都宮けんじさんだけです。もともと間歇金疑惑に端を発したこの選挙。「政治とカネ」への姿勢は、根本の資格を問うものです。

赤旗 日刊紙 3,400円/月 日曜紙 800円/日